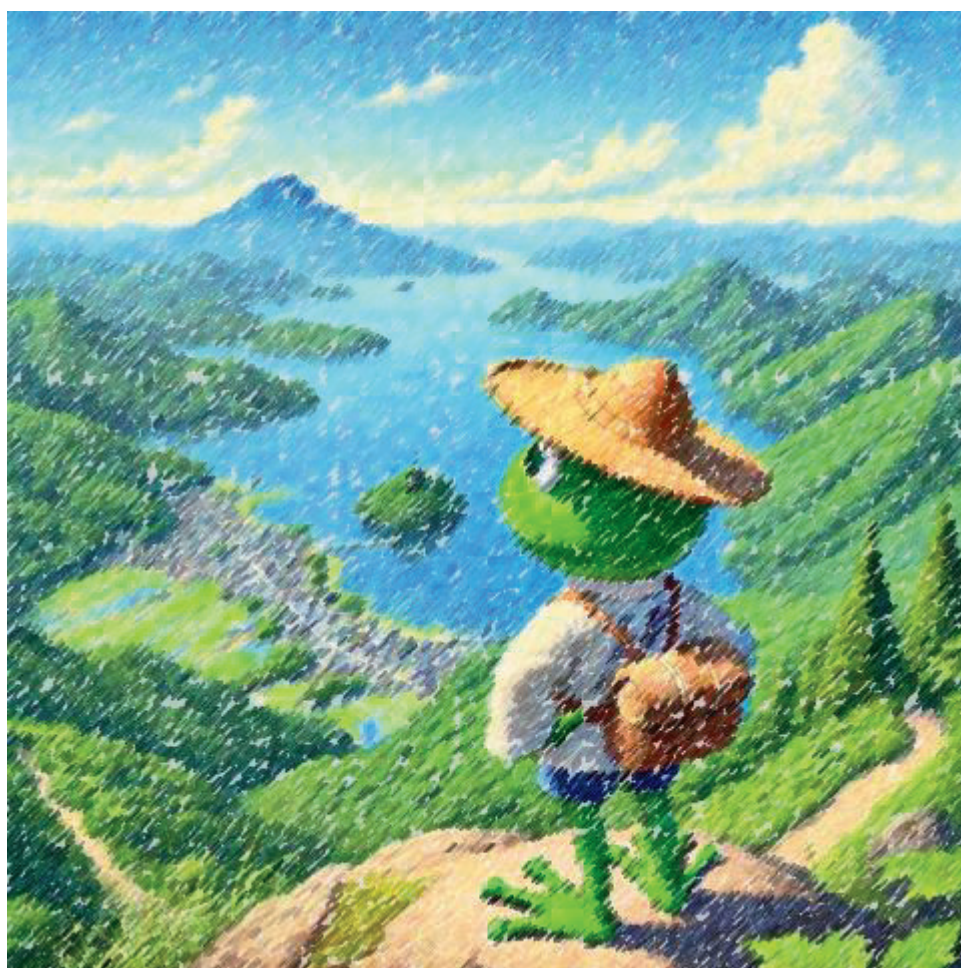


JSIHD newsletter vol.16



2025.May

Japanese Society of Immunotherapy for Hematological Disorders

目次

日本血液疾患免疫療法学会理事長からのご挨拶	1
-----------------------------	---

門脇 則光

日本血液疾患免疫療法学会 理事長

香川大学医学部 血液・免疫・呼吸器内科学

日本血液疾患免疫療法学会理事長退任のご挨拶	2
-----------------------------	---

赤塚 美樹

日本血液疾患免疫療法学会 前理事長

名古屋大学大学院 医学系研究科分子細胞免疫学分野

日本血液疾患免疫療法学会第 16 回学術集会を終えて	3
----------------------------------	---

金子 新

第 16 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会長

京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門/免疫再生治療学

筑波大学トランスポーター医学研究センターがん免疫治療学

理事就任のご挨拶	5
----------------	---

安藤 美樹

日本血液疾患免疫療法学会 理事

順天堂大学大学院 医学研究科 血液内科学

大学院での研究生活	6
-----------------	---

竹内 裕貴

名古屋大学大学院 医学系研究科血液・腫瘍内科学

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 血液内科

優秀演題受賞を受賞して一研究の発展と今後の展望	7
-------------------------------	---

南川 淳隆

京都大学 iPS 細胞研究所 増殖分化機構研究部門

がんウイルス療法における形質細胞様樹状細胞の役割	8
--------------------------------	---

内田 俊平

香川大学医学部 血液・免疫・呼吸器内科学

JSIHD TV の再出発.....	9
--------------------	---

尾路 祐介

あり方委員会委員長

大阪大学大学院医学系研究科

第 16 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を終えて	10
----------------------------------	----

入口 翔一

第 16 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会事務局長

京都大学 iPS 細胞研究所 増殖分化機構研究部門

第 17 回学術集会開催に向けて	11
------------------------	----

村田 誠

第 17 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会会長

滋賀医科大学 内科学講座血液内科 教授

学会事務局からのお知らせ	12
--------------------	----

岡 芳弘

学会事務局（大阪大学大学院医学系研究科・癌ワクチン療法学寄附講座 内）

編集後記	15
------------	----

日本血液疾患免疫療法学会理事長からのご挨拶

血液と免疫の架け橋

門脇 則光 日本血液疾患免疫療法学会 理事長

香川大学医学部 血液・免疫・呼吸器内科学

日本血液疾患免疫療法学会(JSIHD)の第4代理事長に就任しました門脇です。

本学会は、遡ること2005年、血液領域で注目されていなかった免疫療法のポジションを引き上げ、若手に魅力的な領域にするために「血液腫瘍免疫療法フォーラム」として立ち上げられました。その後の胎動期を経てこの領域は急速に発展し、今や多くの血液内科医が注目する分野になりました。キメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞療法(CAR-T細胞療法)が2019年に保険収載されるやいなや、B細胞腫瘍に対する救世主的治療として急速に広まっています。さらに、体内のT細胞を利用する二重特異性抗体療法もラインナップに加わり、対象患者さんが拡大しています。一方、固形がんに対する免疫療法の主役である免疫チェックポイント阻害薬は、造血器腫瘍に対してはHodgkinリンパ腫だけが適応になっており、今後のポジショニングが模索されています。

このように、造血器腫瘍では固形がんやや異なる色彩で免疫療法が進展しており、CAR-T細胞や二重特異性抗体の顕著な効果を固形がんに対して再現するストラテジーが探索されています。その意味で、造血器腫瘍に対する免疫療法は固形がんに対するそれを先導しており、がん免疫療法の最先端を走っているといえます。

さらに遡れば、広く行われている同種造血幹細胞移植が本質的には細胞免疫療法であり、CAR-T細胞療法がその流れと軌を一にすることから、造血器腫瘍に対する免疫療法はひとつの統一した枠組みを形成しています。また、非腫瘍性疾患でも免疫学的機序が病態の主体となる再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、免疫性血小板減少症などがあり、血液疾患と免疫療法は広汎かつ密接な関係があります。

以上のような背景のもと、日本血液疾患免疫療法学会は、さまざまな血液疾患を対象として、免疫の観点から病態や治療を深く議論する学会です。この領域が今後ますます発展することが見込まれる中、多くの研究者・臨床医が本学会のもとに集まることを期待しています。

日本血液疾患免疫療法学会理事長退任のご挨拶

赤塚 美樹 日本血液疾患免疫療法学会 前理事長

名古屋大学大学院 医学系研究科分子細胞免疫学分野

2020 年学術総会時に前々理事長の谷憲三郎先生より日本血液疾患免疫療法学会理事長をバトンタッチしてから 2 期 4 年間理事長を務めさせていただきました。2020 年といえばその 1 月 15 日に国内で初めての COVID-19 感染が確認された年であり、第 12 回学術総会会長の岡 芳弘先生が対面開催からまだ慣れないハイブリッド開催に急遽変更され、ずいぶんご苦労されながらも無事学会を成功に導かれました。今でこそ当たり前になりましたが、理事会や評議員会も大部分がウェブ参加で、顔を見ながら討論できない状況に意思決定の難しさを痛感いたしました。波状攻撃のように流行が来るために、その後の第 13 回（会長：藤井 眞一郎先生）も安全な会場を確保されてのハイブリッド開催、そしてついに第 14 回（会長：高橋 義行先生）第 15 回（会長：尾路 祐介先生）は完全 Web 開催となってしまったことは記憶に新しいかと思います。しかしこの間に Web 開催のシステムも改良とともに安価になり、顔を合わせて話すことが出来ない不満を除けば、学会そのものの発表の質は元に戻ったと思います。この間に総会会長をお勤めになられた先生方の多大なるご尽力に本当に感謝申し上げます。

さて理事長就任時のニューズレターのご挨拶では若手の育成とスキルアップができるような環境の提供を目標に掲げておりました。COVID-19 の流行が対面での効果的な情報交換の機会を奪ったことが残念ではありますが、あり方委員会での議論を進め、さらに Web を通じた情報提供の場として尾路祐介先生に jsihdTV を立ち上げていただきました。ここではまず保仙直毅先生の血液疾患免疫療法研究への入門を薦めるご講演を閲覧できるようになりました。その後のビデオライブラリの充実がまだ進められておりませんが、このような場を会員の皆様からの有志の投稿で盛り上げていただければと存じます。また、本学会を法人化するかの議論もかなり深堀することが出来ました。これに並行して学会役員や学会発表演者の COI を明示して透明化に努めるため、村田 誠先生をはじめ有志の先生方には規約や細則作成に大変なご尽力をいただきました。最後に、本学会の会員の多くは日本血液学会会員と重なることから、日本血液学会の専門医認定委員会と交渉を重ねた結果、本学会を「日本血液学会血液専門医単位取得認定学会」とすることが出来ました。とはいえ、やり残したことが多く大変申し訳なく思っております。

最後に新理事長の門脇 則光先生は本学会がフォーラム・研究会であったときからのメンバーであり、本学会を次のステップへリードしていただくには適任の方です。引き続き会員の皆様の益々のご活躍を祈念するとともに、新体制の本学会へご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

日本血液疾患免疫療法学会第 16 回学術集会を終えて

金子 新 第 16 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会長

京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門/免疫再生治療学
筑波大学トランスボーダー医学研究センターがん免疫治療学

猛暑の 2024 年 7 月 26-27 日、祇園祭の熱気も冷めやらぬ京都で第 16 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会が 3 年ぶりに完全オンライン開催されました。” Exploring SDGs in Immunotherapy” をテーマに、免疫療法の可能性と持続性について議論したいとの願いを込めたプログラム構成としました。

いきなりお金の話で恐縮ですが、当学会は年次学術集会において会員である学生・大学院生や研修医、パラメディカルスタッフから参加費を徴収しない数少ない医学系学会の一つです。上述の学生他は非会員でも 2 日間のフル参加で 2000 円という価格も破格です。免疫療法の発展や持続を担う多くの若手参加者を念頭に、免疫療法の基礎研究から臨床応用までの流れに参加者にダイナミックに感じてもらうプログラム構成にすること、具体的には、従前の治療とは性質の異なる免疫療法開発の基礎研究的アプローチを知り、橋渡し研究・社会実装における進捗と課題を認識し、そして解決策を全員で考察できるようなプログラム構成とすることを心がけました。

シンポジウムを軸に、正常造血・異常造血の理解から新たな治療の萌芽を感じさせるセッション、治療を普遍化させるツールとしての期待が高まる iPS 免疫細胞の現在地を確認するセッション、そして社会実装された免疫細胞治療の運用法とさらなる普遍化を図るアプローチを紹介するセッションを設定し、また基調講演、企業共催セミナー、会長講演も全体として基礎研究から臨床応用の流れをカバーしました。いずれの口演にも多くの参加者にご参集いただき、持続性を含む活発な討論が展開されたことから、演者・参加者ともに今後の診療や研究に役立つヒントが数多く得られたのではないかと感じており、開催者冥利に尽きる次第です。

中でも、免疫療法の黎明期の技術開発から CAR-T の社会実装までを「産みの親」として実現された Carl June 博士をお迎えして基調講演にご登壇いただけたこと、また T 細胞が本来の抗原受容体とする TCR に主眼をおいた Chiara Bonini 博士の堅実な研究開発・臨床開発のご講演をいただけたことは本学術集会の華であり、若手の参加者を中心に大きな刺激となったのではないかと感じております。両博士はじめご登壇いただいたすべての演者の先生方にご参加の皆様にあらためて御礼申し上げます。もちろんポスターセッションでも活発な議論が展開され、特に優秀であった若手の三演題が優秀演題賞を受賞しました。ぜひ今後の彼らの活躍にもご注目ください。

本学術集会開催の全般にわたってご指導いただいた赤塚理事長、岡事務局長、尾路前大会長、理事・役員の先生方ならびに学会スタッフの皆様にご心から感謝申し上げます。幸い多くの皆様に好意的に受け止めていただいた一方、結果的に Cell Therapy が殆どを占めるプログラム構成となり、まさに免疫療法としての多様性に欠ける部分があったことを深く反省しており、誌面を借りてお詫び申し上げます。

さて、次回の学術集会は、村田誠先生を長として滋賀県大津市で開催されます。暑気は古都の盆地に残し、学術集会の熱気を秋水の湖国へと比叡山を越えて送り出し、ここに第 16 回学術集会長の任を終えたいと思います。

第 17 回学術集会の盛会を心からお祈り申し上げます。



理事就任のご挨拶

安藤 美樹 日本血液疾患免疫療法学会 理事

順天堂大学大学院 医学研究科 血液内科学

この度、新たに理事に就任いたしました順天堂大学血液内科安藤美樹です。ご推薦いただいた理事の皆様にご心より感謝申し上げます。

私は 2001 年より難治性の EB ウイルス関連リンパ腫に対する新規治療開発をテーマに研究を開始し、現在もライフワークとして継続しております。2011 年には米国ベイラー医科大学 The Center for Cell and Gene Therapy へ留学し、Malcolm K Brenner 教授のポストドクとして、遺伝子細胞治療の本場で研鑽を積みました。多くの博士研究員、大学院生がキメラ抗原受容体 T 細胞療法(CAR-T)、ウイルス抗原特異的 CTL 療法をはじめとする、最先端の T 細胞療法の研究を行っておいりましたので、基礎研究を臨床に繋げる橋渡し研究の実現を実際に見ることができ、とても貴重な経験となりました。帰国後は東京大学医科学研究所幹細胞治療部門の中内啓光教授のもと、iPS 細胞技術を用いて難治性腫瘍を克服するための免疫 T 細胞療法の研究開発を行い、臨床応用に向けて発展させることができました。その後 2017 年には母校である順天堂大学に戻り、診療の傍ら、研究室を立ち上げ、医師主導治験の開始準備を進めております。

順天堂大学血液内科では 27 床の無菌室を活用するため、多くの CAR-T 療法と同種造血幹細胞移植を行っております。質の高い血液内科診療を行いながら、画期的で最先端の研究を行うことを目指しております。そして研究成果が難治性腫瘍に苦しむ患者さんの新規治療法開発に繋がることを、チーム全体の目標としております。

血液疾患免疫療法分野で貢献できるよう、微力ながら精進いたします。ご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

大学院での研究生活

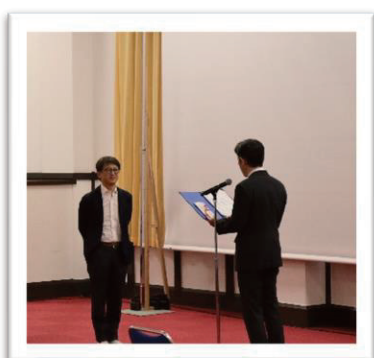
竹内 裕貴

名古屋大学大学院 医学系研究科血液・腫瘍内科学
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 血液内科

名古屋大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学大学院生（現在は日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、血液内科に所属しております。）の竹内裕貴と申します。この度は第16回血液疾患免疫療法学会学術集会において大変光栄な賞を頂戴しこの場を借りて御礼申し上げます。

私は2020年に大学院入学後、清井仁先生、寺倉精太郎先生にご指導を賜りましてCAR-Tの研究に携わらせていただきました。今回の学術集会においてはCD19 CAR-Tの共刺激ドメインごとでの代謝背景の違いに関する内容を発表いたしました。発表のオリジナリティーとしては既存のCD28、4-1BBの共刺激ドメインの他に、当研究室から報告された79A40を共刺激ドメインにもつCD19CAR-Tを含めた基礎実験を行い、質量分析法を用いたプロテオミクスの結果などを報告いたしました。

現在はこれらの基礎から得られたデータと臨床的な背景を含めた解析を私たちのグループにて行い、最終的な結果公表に持ち込めるよう準備を進めている段階です。私の所属している病院においても徐々にではございますがCAR-T治療の実施件数も増えてきており、今後は実臨床での経験も積みつつ大学院で勉強させていただいた基礎的な視点を忘れず患者さんとも向き合っていきたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



受賞者に代わり名古屋大学 寺倉精太郎先生が
賞状を受領されました



優秀演題受賞を受賞してー研究の発展と今後の展望

南川 淳隆

京都大学 iPS 細胞研究所 増殖分化機構研究部門

学会員の先生方、初めまして、京都大学 iPS 細胞研究所の南川淳隆と申します。金子新教授の研究室で、バイオエンジニアリングの研究を続けております。

私は、キメラ受容体の構造研究の過程で、偶然にも受容体の細胞外ドメインの切断現象であるシェディングが、細胞間の膜蛋白質の移動現象であるトロゴサイトーシスの程度を調整している事を発見し、先日日本血液疾患免疫療法学会学術集会にでも発表させていただきました。優秀演題に採択くださり、興味を持って頂けたこと、非常にありがたく思います。

トロゴサイトーシスによる抗原発現量の低下は、がん細胞の免疫逃避システムにおいて重要な役割を担うと考えられ、そのコントロールは、今後の免疫療法において、非常に重要な要素の一つになってくのではないかと、私は勝手に考えております。また受容体のシェディング現象は、多くの膜型受容体で観察されるものであり、シェディングとトロゴサイトーシスは近接細胞間のコミュニケーションにおいて重要な役割がある事が予想され、非常に発展性のある研究対象なんじゃないかと期待しています。

私自身はトロゴサイトーシスのコントロールに関して、免疫療法を中心に社会実装を目指した研究と、細胞間コミュニケーションの解明という基礎的研究の両輪で研究を進めて、概念として世に広めていければ面白いんじゃないかという野望を持って研究活動を続けていく所存です。もし論文、学会、それに限らず何かのご縁がありましたら、お声掛けいただければと思います。



がんウイルス療法における形質細胞様樹状細胞の役割

内田 俊平

香川大学医学部 血液・免疫・呼吸器内科学

私たちの研究室では、がんウイルス療法における自然免疫の活性化と、それに続く抗腫瘍免疫のメカニズムを研究しています。本研究では、遺伝子組換え単純ヘルペスウイルス 1 型 (T-01) を用い、同系腫瘍モデルを活用して生体内での作用機序を解析しました。

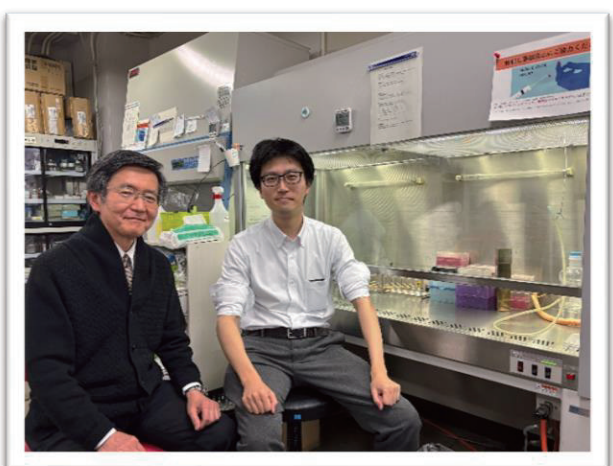
がんウイルス療法は、腫瘍細胞を直接傷害するとともに、免疫応答を活性化することで効果を発揮しますが、その詳細な仕組みは十分に解明されていません。本研究では、HSV-1 感染受容体であるヒト nectin-1 を発現させたマウス左右皮下腫瘍内の一方に T-01 を投与する実験系を用いました。その結果、自然免疫の活性化には cGAS-STING 経路と TLR9 シグナルが重要であり、特に TLR9 の欠失によって遠隔腫瘍への抗腫瘍効果が消失することが明らかになりました。また、I 型インターフェロンと、それを大量に産生する形質細胞様樹状細胞 (pDC) が、T-01 による全身性の抗腫瘍免疫に不可欠であることも示されました。

本研究の成果は、がんウイルス療法のさらなる発展に寄与すると期待されます。指導してくださった門脇則光教授には、心より感謝申し上げます。教授の温かいご指導のもと、貴重な学びと挑戦の機会を得ることができました。

私たちの研究室では、がん免疫療法を中心に、基礎研究から臨床応用を視野に入れた幅広い研究を行っています。今後も、より効果的ながん治療の確立を目指し、研究に励んでまいります。



受賞者に代わり香川大学 門脇 則光先生が
賞状を受領されました



JSIHD TV の再出発

尾路 祐介 あり方委員会委員長

大阪大学大学院医学系研究科

ありかた委員会からの現況報告です。

2022年に学会動画の配信プラットフォームとしてJSIHD TVを開設したもののその後新規の動画をアップできず停滞が続いておりました。このたび学会事務局に動画コンテンツの配信プラットフォームを新たに整備していただき再出発することになりました。

先生方にご協力をいただきこれまでに作成しましたコンテンツとともに今後新たなコンテンツを作成公開し、学術集会、ニュースレターとはまた異なった領域で会員の皆様に役立てていただけるようにしていきたいと思います。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



第 16 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を終えて

入口 翔一 第 16 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会事務局長

京都大学 iPS 細胞研究所 増殖分化機構研究部門

第 16 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を 2024 年 7 月 26 日（金）、27 日（土）の 2 日間京都大学百周年時計台記念館にて開催いたしました。今大会はまだ新型コロナウイルス感染症の社会的影響が残る中、現地開催に向けて準備を進めてまいりました。感染再拡大への不安とぜひ現地開催したいという思いの中、いくつかの可能性を模索しながらの準備となりました。開催に向けては、岡先生、森本先生に多大なご支援とご助言を賜りました。尾路先生には学会開催について不慣れな事務局メンバーに以前のご経験について貴重な情報をご教示いただきました。この場をお借りいたしまして、心より感謝申し上げます。また、参加いただきました皆様とご協賛いただきました関係者の皆様にも心より御礼申し上げます。

今回の学術集会は Exploring SDGs in Immunotherapy をテーマに掲げさせていただきました。会長の意向の元、あえて免疫細胞療法に特化した演題を揃えさせていただきましたが、多数の皆様にご来場いただき事務局としては非常に安堵しております。持続的な免疫療法実現には、産官学問わず皆様の智慧を結集することが重要であると日々感じておりますが、今回のように大学・企業・ベンチャー企業など多様な組織にご所属の皆様にご参加いただき交流いただく機会を設けることができ大変嬉しく思っております。1 日目のシンポジウムでは基礎と前臨床での開発に取り組まれている先生方にご発表いただき、2 日目は実臨床を中心とした演題をシンポジウムにてご発表いただきました。企業共催セミナーでは免疫細胞療法の最先端を走っていらっしゃる先生方にご講演いただきました。そして、基調講演ではペンシルベニア大学の Carl June 先生とイタリア・サンラファエレ研究所の Chiara Bonini 先生に現地にお越しいただき、CAR-T 細胞療法と TCR-T 細胞療法開発についてご自身の貴重な経験とともにご講演いただきました。1 日目の懇親会も多数の皆様にご来場いただき大変盛会となりました。Web での学会開催もすっかり定着して利便性は感じているところですが、現地での予期しない出会いなど現地開催もあらためて素晴らしい経験になると実感いたしました。

末筆ではございますが、非常に暑い中、京都までお越しいただき誠にありがとうございます。本学術集会が皆様のご研究・ご事業の発展に少しでも貢献できましたら本懐でございます。本学会の益々のご発展と、村田誠先生のもとで開催されます、来年の第 17 回大会もより一層盛会となりますよう、心より祈念いたします。

第 17 回学術集会開催に向けて

村田 誠 第 17 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会会長

滋賀医科大学 内科学講座血液内科 教授

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、第 17 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を 2025 年 9 月 12 日（金）、13 日（土）の 2 日間、ピアザ淡海（大津市）で開催させていただくこととなりました。

血液腫瘍に対して免疫療法が有効であることは、骨髄移植後の移植片対白血病効果の存在により古くから証明されていました。その後、CD20 抗体を始めとする数々のモノクローナル抗体や、腫瘍細胞表面上の抗原と T 細胞表面上の CD3 を結合する二重特異性抗体の開発、そして CAR-T 細胞の開発など、血液腫瘍性疾患に対する免疫療法は実臨床において急速に拡大しています。また最近では、血液非腫瘍性疾患に対する免疫療法の開発も進んでいます。例えば、寒冷凝集素症、ITP、TTP に対する抗体療法、血友病 A に対する二重特異性抗体、GVHD に対する間葉系幹細胞や体外フォトフェレーシスなどは、すでに保険診療として実施されています。このように腫瘍・非腫瘍を問わず、広く血液疾患全般に対する免疫療法の開発が進められている現状を踏まえ、本学術集会のテーマを「New Horizons in Immunotherapy 免疫療法の新たな展望」としました。

特別講演では、T 細胞療法のパイオニアであられる Fred Hutchinson Cancer Center の Stanley R. Riddell 先生よりご講演を賜ります。また、CAR-T や CAR-T 以外の免疫療法に焦点を当てたシンポジウムを開催いたします。もちろん共催セミナーでも免疫療法の最新の話題を提供していただきます。この分野がますます発展するためには、免疫に興味を持つ若い医師、研究者の参入が不可欠と考えます。そこで本学術集会がその契機となることを期待して、対面での一般口演を復活させ、奨励賞を設けます。そして一日目の夜に懇親会を開催いたします。

一人でも多くの方々に秋の琵琶湖畔へお越しいただき、本学術集会を楽しまれることを心より願っております。



学会事務局からのお知らせ

岡 芳弘

学会事務局（大阪大学大学院医学系研究科・癌ワクチン療法学寄附講座 内）

平素より日本血液疾患免疫療法学会の発展・運営にご協力賜り誠にありがとうございます。
2024年（令和6年）度第1回理事会、評議員会、総会等での主な報告事項、ならびに、
主な審議・決定事項をお知らせ致します。

報告事項

① 物故者

物故者の報告はありませんでした。

② 会員入会・会費納入状況報告

会員入会・会費納入状況報告が事務局からされました。2024年6月30日の時点で、
会員数は179名でした。赤塚美樹理事長らから、会費未納者の完納率を上げる努力
の必要性が強調されました。

③ 令和5年度活動報告

1) Newsletter Vol.14 発刊

Newsletter 編集長の尾路祐介理事より Newsletter Vol.14 発刊についての報告があり
ました。

2) 第15回学術集会

令和5年6月23-24日に、第15回学術集会が完全Web方式で行われました。その
学術集会につきまして、学術集会会長であった尾路祐介理事より、151名の参加があ
ったことなどの報告がありました。

④ 令和5年度会計報告

令和5年度学会事務局会計報告と第15回学術集会会計報告がされました。また、こ
れらの会計処理につきましては、清水佳奈子監事と大嶺 謙監事により違算ないこと
が確認されていることが報告されました。

⑤ 第17回学術集会（令和7年度）準備状況

次年度（令和7年度）の第17回学術集会の開催日（9月12-13日）、開催地（ピアザ

淡海：滋賀県大津市)、準備状況などについて、学術集会会長の村田 誠 理事から説明がありました。

⑥ 第 16 回学術集会（令和 6 年度）についての報告

学術集会会長の金子 新 理事から、今年度の第 16 回学術集会に 160 名の参加登録があったことなどが報告されました。

⑦ 教育コンテンツの作成

あり方委員会委員長の尾路祐介理事より、動画コンテンツを作成してアップしたと、今後も整備を続けることなどが報告されました。

⑧ 学会の倫理委員会・COI 委員会の構築

倫理委員会・COI 委員会委員長の村田 誠 理事より、この委員会の規約などがすでにホームページに掲載されていること、役員の COI の申請が必要であることなどの説明がありました。

⑨ 収益改善に向けての取り組み

赤塚美樹理事長から、法人化した場合は年間数十万円の費用が必要であること、いまだ収益改善は十分でないこと、直近 2 回の学術集会開催時の残預金が学会事務局へ寄附されたこと、その寄附された残預金は法人化手続きの資金として使用される可能性があることなどの説明がありました。

⑩ 会員数を増加させる方策

赤塚美樹理事長より、JSIHD 学術集会への参加が JSH の血液専門医資格更新単位として認定されたことが報告されました。

⑪ ホームページの活性化

赤塚理事長から、「関連学会開催のお知らせ」などをホームページに掲載するための書式が整備されたことが報告されました。

審議・決定事項

① 新理事長選出

赤塚美樹理事長が任期満了となり、新理事長として門脇則光理事（香川大学）が選出されました。

② 第 18 回（令和 8 年度）学術集会会長選出

保仙直毅理事（大阪大学）が第 18 回学術集会会長に選出されました。

③ 新役員選出

新理事に、安藤美樹先生（順天堂大学）が選出されました。

④ 役員の退任関係

2024 年学術集会終了日をもって以下のようなことが承認されました。

森尾友宏先生（東京医科歯科大学）が理事から名誉会員へ移行されます。

日野雅之先生（大阪公立大学）が評議員から功労会員へ移行されます。

⑤ 新ニュースレター担当者の選出

尾路祐介理事（大阪大学）の任期満了につき、新しく、金子 新 理事（京都大学）がニュースレター担当者に選出されました。

⑥ 法人化に向けての議論

赤塚理事長から、法人化した場合の最大のメリットは社会的信用度が増しそれともなっていて寄附を得やすくなることであることが説明されました。さらに、法人化に向けての議論を開始するに至った経緯、法人化した場合のメリット・デメリット、法人化するための手続き、法人化に要する費用、法人化した場合に必要な作業・作業量や人員などの説明がありました。

種々の議論の後、新理事長のもとで今後一年間かけて法人化するかどうかについて協議することになりました。

以上が、主な報告事項、ならびに、主な審議・決定事項です。今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記

本号では、2020 年から 2 期 4 年にわたって理事長をお努め頂いた赤塚美樹先生、2024 年から理事長にご就任いただいた門脇則光先生からのご寄稿を中心に、16 回ならびに 17 回学術集会関連記事、学会事務局関連記事、新理事からのご挨拶などを収載いたしました。お忙しい中にご寄稿いただいた先生方に心から感謝申し上げます。

本号よりニュースレター編集担当が金子新となりましたが、歴代編集長が紡いでこられたニュースレターの伝統を引き継ぎながら、多岐にわたる学会の活動を年 1 回発信していきます。ご寄稿や会員の皆様へのご案内などについて、いかようにも対応いたしますのでお気軽にご連絡ください。

さて表紙イラストに話題となっている ChatGPT4o の画像生成機能を活用してみました。16 回学術集会の京都から比叡を越えて 17 回学術集会の大津へ向かう様子作画するようリクエストしましたが、特定の場所のリクエストには応じられない仕様とのことでした。架空の峠を超えて湖畔の街を目指す旅姿の女性を配しようと、市女笠を被った平安時代の女性をリクエストしましたが日本文化の理解についての ChatGPT の限界を感じ、ファンタジー調のカエル君となりました。これはこれで学会の更なる飛躍・跳躍に繋がることを祈念するものとなっております。

会員の皆様方のご多幸とご発展をお祈り申し上げます。

JSIHD Newsletter 編集部

編集長 金子新

編集員 藤尾友佳子

連絡先 jsihd-newsletter@cira.kyoto-u.ac.jp



会告

第 17 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を下記の日程で開催いたします。
ぜひともご予定に加えていただき、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

開催日時：2025 年 9 月 12 日（金）-9 月 13 日（土）

開催場所：ピアザ淡海（滋賀県大津市）

会長：村田 誠(滋賀医科大学 内科学講座 血液内科 教授)

編集・発行

日本血液疾患免疫療法学会 事務局

大阪大学大学院医学系研究科・癌ワクチン療法学寄附講座内

〒565-0871 吹田市山田丘 2-2

E-mail: jsihd@cit.med.osaka-u.ac.jp

TEL&FAX: 06-6879-3677



日本血液疾患免疫療法学会